

研究主題

技術・家庭科家庭分野における 生活技能を高める学習指導に関する研究

— 自主実習題材での学習指導計画とコンテンツの作成を通して —

【研究担当者】 太田 直利

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2814 FAX 0198-27-3562

E-mail johor@center.iwate-ed.jp

1 研究目的

中学校技術・家庭科家庭分野の学習指導では、製作、整備、操作、調理などの実習を通して、実際の生活に必要な生活技能を習得させ、生活での実践意欲につなげ、生活技能を高めることを重視しています。生活技能を高めるためには、実生活とのつながりや地域の生活文化とのかかわりに配慮し、中学生としての生活を自立的に営めるよう指導することが重要です。

しかし、実際には一斉授業による指導が中心となり、限られた実習時間の中で、一部の生活技能の習得にとどまりがちです。これは、生徒個々に異なっている生活技能の未習得項目に対する個別の示範や補充指導が十分に行われていないことに原因があると考えられます。

このような状況を改善するためには、実生活とのつながりや地域の生活文化とのかかわりに配慮して、習得すべき生活技能の学習を効果的に盛り込んだ自主実習題材での学習指導計画を作成する必要があります。さらに、自主実習題材での学習指導において、生徒が習得すべき生活技能を実習中に確認できるコンテンツを作成し、授業での活用場面を学習指導計画に盛り込むことが効果的であると考えます。

本研究は、自主実習題材での学習指導計画とコンテンツを作成し、それらを活用した授業実践を通して、中学校技術・家庭科家庭分野における生活技能を高める学習指導の充実に役立てようとするものです。

2 技術・家庭科家庭分野における生活技能を高める学習指導に関する基本構想

(1) 生活技能を高める学習指導

本研究を進めるにあたり、中学校学習指導要領解説技術・家庭編に基づき、生活技能とは、中学生として生活を自立的に営むために必要な生活技能のことをいい、よりよい生活を目指した衣食住などの生活で実践する力にとらえませんでした。例えば、衣生活の内容では、日常着の補修に必要な裁縫技能(まつり縫いによる裾上げ、ミシン縫いによるほころび直し、スナップ付けなど)です。食生活の内容では、調理操作(衛生的な食材の洗い方、調理に適した切り方、肉・魚・野菜等を「煮る」・「焼く」・「炒める」など)です。これらの生活技能の習得を図り、生徒が、主体的に実生活で実践しようとする意欲をはぐくむ学習指導が必要であると考えました。

(2) 自主実習題材

中学校学習指導要領解説技術・家庭編では、学習指導の展開の中に、生徒の実際の生活を意図的に盛り込むことや、生徒が学習の成果を積極的に生活に生かすことができるようにすることが重要であると述べています。衣生活の内容では、和服と洋服の構成・着方の違いや刺し子・南部裂き織などの伝統手芸、食生活の内容では、学校周辺地域の伝統的な行事食や郷土料理といった生活文化とのかかわりなどの視点を実習題材での指導計画に意図的に盛り込むことが考えられます。そのことによって、中学生としての生活を自立的に営む力を身に付けることができます。これらの理由から、「自主実習題材」が必要であると考え、次のように定義しました。

自主実習題材	指導する教員が、生徒の生活技能の習得状況を把握し、実生活とのつながりや地域の生活文化とのかかわりに配慮して構成した実習題材のこと
--------	--

この定義を基に、自主実習題材での学習指導計画作成の視点を定め、学習指導計画に意図的に盛り込むことで、生活技能の習得を高めることができると考えました。

(3) コンテンツ作成の視点

本研究におけるコンテンツの作成は、製作、整備、操作、調理などの実習において、生活技能の習得を支援することをねらいとしました。その際、必要とされるコンテンツの情報は、テキスト情報、画像情報としました。生活技能の習得を支援するコンテンツ作成の視点を【表1】に示します。

【表1】生活技能の習得を支援するコンテンツ作成の視点

対象	種類	コンテンツ作成の視点
教員	学習指導計画を支援するコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主実習題材での学習指導計画全体を見通すことができる ・ 習得すべき生活技能が一単位時間ごとに一目で分かる ・ 一単位時間で用いる資料が確認できる ・ 実技示範や補充指導に活用することができる
生徒	実習を支援するコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 習得すべき生活技能を画像情報で確認できる

3 自主実習題材での学習指導計画とコンテンツを活用した授業実践の概要及び結果の分析と考察
 基本構想に基づいて作成した、自主実習題材での学習指導計画とコンテンツについて、有用性を考察するために、授業実践後、生徒を対象に事後調査を行いました。

(1) 基本構想に基づく手立て

自主実習題材での学習指導計画作成の視点を基に、自主実習題材としてウォールポケット製作を行うこととしました。

ア 小学校家庭科における製作実習題材と裁縫技能の習得状況の把握

自主実習題材を構想するため、授業実践を行う生徒を対象に、4月に小学校家庭科での製作実習の状況について、事前調査を行いました。事前調査は、岩手県立総合教育センター(2013),『防災教育と関連付けた家庭科指導資料』の事前調査用紙【資料1】を活用しました。

この事前調査の結果から、製作実習題材では学年問わず「ランチョンマット」が多く、5年次では「ナップザック」、6年次では「エプロン」が多いことが分かりました。手縫いの裁縫技能では、「玉どめ」「返し縫い」「かがり縫い」「ボタン付け」、ミシン操作及び縫い方では、「下糸の巻き方」「下糸の入れ方」「ミシンでの角縫い」の補充指導が必要であることが分かりました。

イ 自主実習題材「ウォールポケット製作」の構想

布を用いた簡単な衣服や小物を製作することを通して、自分や家族の衣生活や住生活を豊かにするための工夫ができることをねらいとしています。【資料2】に「布を用いた物の製作、生活を豊かにする工夫」の製作実習題材例を示します。

ウォールポケット製作は、事前に調査した小学校家庭科における製作実習題材とも重複せず、衣生活だけでなく、住生活を豊かにする工夫を計画させることが可能な実習題材です。ウォールポケットを製作する学習活動を通して、生活を豊かにする工夫を考えさせ、裁縫技能を習得させることができます。ウォールポケット製作の材料と完成見本教材を【資料3】に示します。

(2) 作成した自主実習題材での学習指導計画とコンテンツによる授業実践の概要

授業実践は、盛岡市立北陵中学校、第1学年全7学級のうち、2学級62名(男子34名、女子28名)を対象に平成26年10月7日(火)～11月4日(火)に10時間ずつ実施しました。授業実践の学習内容を【表2】、授業実践の概要(抜粋)を次頁【資料4】に示します。

【資料1】「布を用いた物の製作、生活を豊かにするための工夫」の事前調査用紙(一部)

年 組 番 氏名 _____

Q.1 小学校家庭科での「役に立つ物の製作」実習では、どんな物を製作しましたか？
また、その製作した物はどんな裁縫技能を活用しましたか？

学 年	作 品 名	活用した裁縫技能を○で囲みましょう
小学校 5年生	基礎ぬい織り布	ボタン付け 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい
		ボタン付け 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい
小学校 6年生		ボタン付け 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい
		ボタン付け 並ぬい 返しぬい かがりぬい ミシンでの直線ぬい ミシンでの返しぬい

Q.2 次の裁縫技能について「できる」「やったことがあるが、今は自信がない」「全くやったことがない」のいずれかを答えてください。当てはまる語句を○で囲んでください。

ア 針に糸を通す (糸通しを使わず)	できる	やったことがあるが、今は自信がない	全くやったことがない
イ 玉結び	できる	やったことがあるが、今は自信がない	全くやったことがない
ウ 玉どめ	できる	やったことがあるが、今は自信がない	全くやったことがない
エ 手縫い(並ぬい)	できる	やったことがあるが、今は自信がない	全くやったことがない
オ 手縫い(返しぬい)	できる	やったことがあるが、今は自信がない	全くやったことがない

【資料2】布を用いた物の製作、生活を豊かにする工夫の製作実習題材例

出典：佐藤文子編著(2009),『中学校新学習指導要領の展開技術家庭科家庭分野編』, 明治図書

ハーフパンツ、はっぴ、スモック、ベスト、小物、玩具、マルチカバー、防災袋、カーテン、タペストリーなど

【資料3】ウォールポケット製作の材料と完成見本教材


仕上がり寸法：縦34cm×横31cm
 <材 料>
 台布：縦40cm×横37cm
 ポケット用布：縦40cm×横37cm
 平ひも70cm
 スナップ1個
 ボタン1個
 ミシン糸
 手縫い糸
 しつけ糸

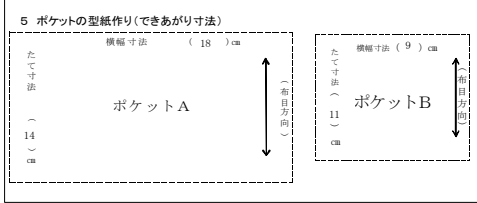







【表2】授業実践の学習内容

時間	学習内容
1時間目	ウォールポケットのデザイン作製
2時間目	ポケットの型紙づくり
3時間目	台布とポケット用布のしるし付け
4時間目	ポケット用布の裁断
5時間目	台布とポケット口の縫いしろのしまつ(しつけ)
6時間目	ポケット口の縫いしろのしまつ(まつり縫い)
7時間目	台布の縫いしろのしまつ(ミシンでの直線縫い)
8時間目	ポケットづくり
9時間目	台布へのポケット付け
10時間目	棒通しづくり(スナップ付け、平ひも付け)

【資料4】授業実践の概要(抜粋)

時間	<p>学習内容</p> <p>学習活動</p>	<p>生徒の様子</p> <p>生徒の記述</p> <p><習得すべき生活技能></p>																					
1時間目	<p>ウォールポケットのデザイン作製</p> <p>生活を振り返り入れたい物や設置場所を考える</p> <p>入れたい物を採寸し、表にまとめる</p>	<p>[学習指導計画を支援するコンテンツ]・[実習を支援するコンテンツ]の活用場面</p> <p>生活を振り返らせ、自分だけではなく、家族も活用する物であることを意識させるために、設置場所を考えさせる</p> <p>[学習シート 1-①]</p> <p>・入れたい物を採寸し、「3入れたい物の大きさを採寸しよう」にまとめる</p> <p>・採寸した結果を基に、型紙をつくらせる</p> <p>[記入例 学習シート1-① 3]</p> <p>3 入れたい物の大きさを採寸しよう 単位cm</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>入れたい物</th> <th>たて</th> <th>たて寸法</th> <th>横</th> <th>厚み×2</th> <th>ゆとり</th> <th>幅寸法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手紙</td> <td>ポケットA・B</td> <td>21</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>1</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>ペン</td> <td>ポケットA・B</td> <td>14.5</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ポケットのたて寸法は、入れたい物のたての長さの3分の2を目安とする</p> <p>[時計を採寸している様子]</p> 	入れたい物	たて	たて寸法	横	厚み×2	ゆとり	幅寸法	手紙	ポケットA・B	21	14	15	1	18	ペン	ポケットA・B	14.5	11	5	2	9
入れたい物	たて	たて寸法	横	厚み×2	ゆとり	幅寸法																	
手紙	ポケットA・B	21	14	15	1	18																	
ペン	ポケットA・B	14.5	11	5	2	9																	

2時間目	<p>ポケットの型紙づくり</p> <p>採寸した結果を基に型紙をつくる</p>	<p>[学習シート 1-①]</p> <p>・「5ポケットの型紙づくり(できあがり寸法)」の型紙の大きさを記入させ、それを基に、型紙づくりができるようにする</p> <p><習得すべき生活技能></p> <p>・ものさしを使って、正しく採寸し、直線を引くことのできる</p> <p>・ゆとり分を加えて、正しく型紙をつくらせることができる</p>
	<p>5 ポケットの型紙作り(できあがり寸法)</p>  <p>・机間指導 ものさしで正しく測り、直線を引き型紙をつくらせる</p> <p>・型紙の点検 生徒が製図した型紙を点検し、正しい寸法であるか確認する全員が、できるまで進めさせない点検が済んだ生徒は、完成予想図に書き込みを加えさせる</p> <p>[型紙づくりの様子]</p>  <p>[型紙の点検を受けている様子]</p> 	

6時間目	<p>ポケット口の縫いしろのしまつ(まつり縫い)</p> <p>まつり縫いの仕方を理解する</p> 	<p>・まつり縫いの縫い方を細かく段階を区切って説明する</p> <p>・表布を小さくくわせ、まつり縫いの縫い目を目立たせずに縫わせる</p> <p>[評価規準設定標本]</p> <p>評価規準「B」の標本を各班に配布し、規準を参考に縫わせる</p> <p>・実技示範 まつり縫い(デジタルビデオカメラ活用)</p> <p>・机間指導 まつり縫いの縫い目に留意させる画像情報を流し、生徒に再確認させる</p> <p>[画像情報]</p> <p>まつり縫いの縫い方</p> 	<p><習得すべき生活技能></p> <p>・針目間隔0.8~1.4cm、針目0.3cmのまつり縫いができる</p> <p>[生徒が縫ったまつり縫いの表側]</p>  <p>・まつり縫いの縫い目の間隔を均等にすることができた</p> <p>・表側に縫い目を目立たせないようにした</p>
------	---	---	--

製作手順

つくるものを決める

- 外出や帰宅の際に、自分や家族の身の回りの物を整理・収納できる工夫を計画させることができます。

デザインを決める

- 生徒一人一人が、ポケットに入れたい物を考え、採寸させることができます。

型紙をつくる

- 採寸した長さにゆとり分を加え、型紙を作製させることができます。
- できあがり線や裁ち切り線を引くことで、ものさしの使い方を復習させることができます。

裁断をする

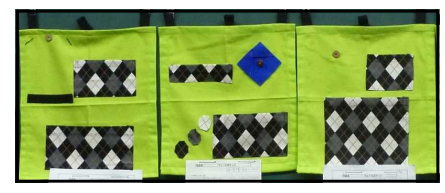
- 裁ちばさみの安全な取扱い方を理解させることができます。
- 布を無駄にしない裁ち方を確認させることができます。

縫う

- 台布の縫いしろのしまつを、小学校で学習した裁縫技能を盛り込み、復習させることができます。
- まつり縫いでポケット口の縫いしろのしまつを行い、中学校で習得すべき裁縫技能を習得させることができます。
- ミシンでの角縫いを取り入れて、ポケット付けをさせることができます。
- 棒通しづくりで、スナップ付けをさせることができます。

仕上げる

- 台布の空いたスペースに、かがり縫いやボタン付けを盛り込み、飾り付けをさせることができます。
- ポケットの製作部分に生徒一人一人の「生活を工夫し、創造する能力」の評価を設定できます。



(3) 授業実践結果の分析と考察

授業実践後に、検証計画に基づき、調査し、考察しました。その結果、それぞれについてプラスの変容がみられ、自主実習題材での学習指導計画と作成したコンテンツを活用した授業実践は効果があったと考えられます。事後調査の一つである「コンテンツを活用した学習指導に関する意識」についての結果と分析について紹介します。

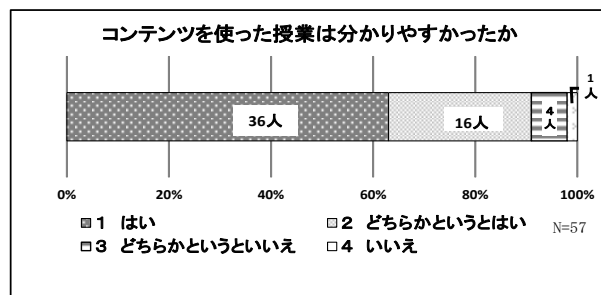
ア 裁縫技能のコンテンツを使った授業の分かりやすさについて

【図1】【資料5】は、コンテンツを使った授業の分かりやすさについて調査した結果です。

コンテンツを活用した製作実習の授業について、91%の生徒が肯定的な回答をしています。その理由として、教員の実技示範のみで製作を進められない生徒が、コンテンツの活用によって、自分でつまづき部分を確認し製作を再開できたことが、裁縫技能を習得する上で役に立ったためと考えられます。その間、教員は、直接補充指導を受けたい生徒に対応することができます。

イ 実習におけるコンテンツの有用性について

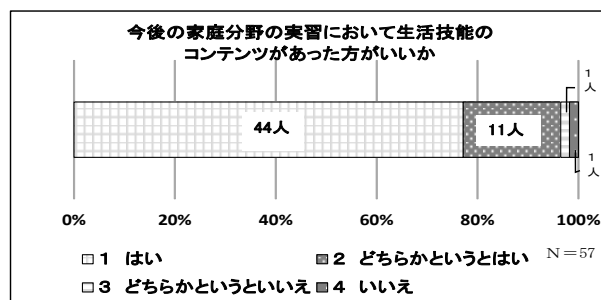
【図2】は、家庭分野の実習における生活技能の習得を支援するコンテンツの有用性について調査した結果です。今後の家庭分野の実習においても、96%の生徒が「コンテンツが必要である」と肯定的に回答をしています。その理由として、自分で分からないところをすぐに確認できることや、画像で繰り返し確認できることなどがあり、実習において、生徒が主体的に作業を進める上で役に立つためと考えられます。このことから、コンテンツは、家庭分野での実習を通して、生活技能の習得を支援するために有用であったと考えられます。



【図1】実習を支援するコンテンツの有用性

【資料5】コンテンツを使った授業の分かりやすさについての理由

- ・繰り返し見ることで作業ができた
- ・画像が分かりやすかったから
- ・説明の後に画像があるのが良い



【図2】実習を支援するコンテンツの有用性



4 おわりに

本研究は、中学校技術・家庭科家庭分野における生活技能を高める学習指導を行うため、自主実習題材での学習指導計画とコンテンツを作成し、それらを活用した授業実践を通して、生活技能を高める学習指導の充実に役立てようとしたものです。そのために、中学校技術・家庭科家庭分野における生活技能を高める学習指導に関する基本構想に基づき、自主実習題材での学習指導計画と生活技能の習得を支援するコンテンツを作成しました。これらを活用することにより、基礎的・基本的な知識及び技能・技術を習得させることができました。さらに、実生活を豊かにするために工夫したいという意欲や、布を用いた物の製作を実生活でも実践したいという意欲が高まりました。これらのことから、中学校技術・家庭科家庭分野における生活技能を高める学習指導において、自主実習題材での学習指導計画は有効であり、コンテンツを活用して学習指導を行うことが有用であることを確認できました。

研究内容の詳細は、当センターのWebページに掲載しておりますので、ご活用ください。